

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270300191		
法人名	有限会社 ハートキュアエム		
事業所名	グループホーム ハートキュアひらた(むつみ)		
所在地	出雲市国富町8 3 2 - 2		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 14 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3270300191-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○グループホームのホールからは、田園風景を眺めることができ、季節感を感じることが出来ると利用者様に喜んでいただいています。また、裏庭で野菜を育て、成長期、収穫期を利用者様と一緒に楽しみ、採れたての野菜を召し上がっていただいています。
○月に一度、ハートキュア通信を発行し、利用者様の日々の活動状況などを写真やコメントを交えて御家族の皆様へお伝えしています。
○地元自治会に加入し、自治会のお手伝いをするなど地域活動をしています。
○「ゆっくり」「いっしょに」「楽しく」「おだやかに」の理念の元、利用者様に日々安心して過ごして頂ける生活環境を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームから田園風景が眺められ、デイサービスが併設された2ユニットのグループホームです。
・地元自治会の賛助会員として職員は清掃活動に参加され地域との交流に努めておられます。
・「地域住民との交流のもとで」の基本理念のもと地域の行事や公民館祭りには作品を展示されるなど利用者、職員は地域に開かれた施設となるよう交流されています。
・コロナ禍の中、日々の生活の中で職員と一緒に食事づくりやホームでの行事、車から降りない自宅付近のドライブ、食事、排泄、入浴などについて感染症防止に努められ安心して過ごすことができるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域住民との交流のもとで」という方針を踏まえ、理念を実践できるよう努力している。	「地域住民との交流のもとで」の基本理念のもとでケアの実践をされています。地域に開かれた施設となるよう職員に周知されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の賛助会員として活動している。	自治会の賛助会員として地域の活動に職員が参加されています。コロナ禍の為、保育園の子ども達や中学生の職場体験は中止されています。天気の良い日にホーム周りの散歩やホールでひなたぼっこをされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	県内の感染症が小康状態の際に地域の中学生の研修受け入れにて認知症について詳しく説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症予防対応に力を入れていたため、事務作業が遅れ、運営推進会議の実施回数が2回となってしまった。	コロナ禍の為、運営推進会議を书面開催されています。メンバーの方には活動状況等送付されています。電話で利用者のことや状況等聞かれる事はありませんでした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ訪問し、質問や協議など連携を取り、サービスの質の向上を目指し努力している。	コロナクラスター対策(高齢者、小学校、病院等)について、ホームでの3回目コロナワクチン接種について等、電話やFAXで連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を実施し、正しい理解を推進している。	身体拘束廃止マニュアルを作成されています。身体拘束廃止の研修を行われ職員は理解されています。身体拘束廃止委員会も開催され、マニュアル、状況について、アンケート実施されユニット全体で話し合いが行なわれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための施設内研修を実施し、正しい理解を推進している。	虐待防止マニュアルを作成されています。ユニット全体で内部研修が行われています。マニュアル、状況、ケアの見直し、アンケートも実施されています。ユニット全体で虐待の未然防止、検討、改善策を話し合われています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。地域福祉権利擁後事業と成年後見人制度を利用している方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明している。また、事業所の取り組みや理念なども説明し、理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族様のここに合わせた頻度で連絡している。面会が少ない家族には電話連絡をしている。	コロナ禍の為、利用者、家族は直接面会は中止されています。玄関先で家族より荷物等職員が受け取り利用者に渡されます。ケアプラン更新時に電話で意見・要望等を聞いておられます。面会が少ない家族や遠方の家族には月1回、電話やハートキュア通信で生活状況や様子を報告し、意見等を伺っておられます。緊急時の連絡はショートメールでも行われます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろの利用者の様子や言葉からその思いを察するよう努力している。毎月の職員会で全ての利用者様の状態や思いについてカンファレンスを実施している。	日頃の利用者の様子や言葉から思いを察して意見・要望等を汲み取られています。毎月の職員会議で全利用者の状態や思いについてカンファレンスで検討されケアプランに反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の資格取得を業務研修として取り扱い支援している。また、資格取得に伴う昇給などで職員の技能向上を支援している。	個人の資格取得も業務研修として取り扱い支援されています。資格取得に伴う昇給等で技能向上の支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の資格取得を業務研修として取り扱い支援している。また、資格取得に伴う昇給などで職員の技能向上を支援している。	個人の資格取得を業務研修として取り扱いをされ目指す目的や資格取得を目指し研修参加されています。資格取得(介護福祉士、ケアマネジャー、社会福祉士等)に伴う昇給などで技能向上の支援が行われています。コロナ禍の為、リアルでの外部研修は少なくなっておりますがWEB研修等での対応もされています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症予防対応などで、外部の同業事業者にどのような対応をしているか相談を行った。また、同様に外部事業者からの問い合わせに回答をさせていただき情報交換に努めた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談があった場合には、本人にも面会し、生活状況や状態、入居前の施設への聞き取りなどを行い、よりよい関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過をじっくり伺い、また、今後どのような生活を望んでおられるのかを一緒に考えていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、グループホームでの生活が適しているか見極めるようにしている。他のサービスが適していると判断される場合は、市役所や他サービスの連絡先などの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や季節の行事等を通して普段から利用者に教えていただく場面を設けている。利用者の入替があったので、その方が他の希望がなんであるかもご家族やご本人と検討し、希望に合った支援が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、職員でサービス担当者会議を開き利用者の希望に添えるようにしている。面会やご家族との外出・外泊の機会が増えるような、関係作りを支援している。また家族会を実施できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のなかには地域の友人、知人が訪ねてこられる方も多し。またDSからなじみの方の面会がある方もおられたが、感染症対策のため、交流できないことも増えた。	利用者の中には地域の友人、知人が訪ねて来られる方も多しです。デイサービスから馴染みの方の面会もあるがコロナ感染症対策の為、交流出来ない事も増えています。訪問や面会の方と話をされる事で行きたい場所を話される利用者もおられます。このことは長い間の馴染みの方との関係や地域の場所などが思い出され関わりの強さを感じられました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑になるよう職員が調整役になっている。食事の席の配置も利用者同士の関係を考慮して座っていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族の希望がないので実施例はまだない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望を取り入れて支援していくよう努めている。	日々の生活や会話から本人の希望を把握され支援されています。困難な方は家族から利用前の生活履歴などから希望を伺われ支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人やご家族からこれまでの生活の仕方について良くお聞きするよう努めている。それを洋式にまとめ職員間で共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や生活リズムを把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、職員との担当者会議、ケースカンファレンス、モニタリングを通して職員全体でケアプランの作成・見直しを行っている。担当者会議や面会時のご家族のご意見頂いた情報をケアプランに反映している。	本人や家族の意見、要望を伺いケアマネ、職員でカンファレンスを開催されアセスメントを基に介護計画を作成されています。コロナ禍の為、家族には玄関で確認をされています。遠方の家族には電話等で要望など伺われケアマネ、職員で話し合い介護計画を作成され家族に送付され同意を頂かれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況、ケアの実践や結果、気づきを記録している。特変のあるときは詳しく記録し、職員全員が目を通すようにしている。	日々の生活状況や気づき、意向に沿ったケアの支援を記録され職員は共有されています。職員間で連絡ノートの活用や個々の支援内容を見直しに活かされています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応し、個別の満足が高まるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症予防対策を強化している時期が長く地域とのつながりが薄くなったが、中学校の生涯学習受け入れなどで交流の機会を設けることができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関のほか、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようご家族と協力をして通院介助を行ったり、複数の医療機関との関係を密にしている。	在宅時からのかかりつけ医の受診、協力医を希望の方はホームに往診されます。かかりつけ医の受診は家族が同行されます。受診時の状態は看護師が口頭で家族に伝えられます。結果は口頭で看護師に伝えられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師を配置し、利用者の健康状態を把握・相談ができるようにしている。また、必要時に看護師が通院介助を行うなど医療との連携を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が長引かないよう病院への働きかけをするとともに、支援方法に関する情報を医療機関に提供している。	利用者の入院について入院が長引かないよう働きかけをされています。入院についてホームでの生活状況、病歴、ケア方法等情報提供されます。退院時は退院カンファレンスに参加されホームでの生活、病後のケアに活かされます。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応を説明している。また、ターミナルケアについても、重度化した場合のご希望を伺い施設ができる対応を説明したうえで同意書をいただいている。また、部内研修も実施し啓発に努めている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明されています。ターミナルケアや重度化の場合の希望を伺われ、ホームができる対応を説明され同意書を頂いております。看取りの希望があればかかりつけ医や協力医と相談され看取りプランを作成されます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時に備えて、スムーズな連携ができるよう緊急連絡票を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応については地域コミセンより災害対策本部連絡票などの情報をいただいている。また、河川氾濫があったが、迅速に対応を協議し、事故無く2Fへの垂直避難が行えた。	災害時の対応について地域コミセンより災害対策本部連絡票などの情報を頂かれています。水害でホーム前の用水路が溢れたが迅速に対応を協議され事故無く2Fに垂直避難が行われました。ホームで備蓄を用意されています。	BCP画作成中ですので早期作成に期待します。。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの問題や人権についての研修を実施している。また、それを念頭において、職員会議にて利用者の自尊心を尊重した対応を全員で考え実行している。	職員会議でプライバシー保護、人権について研修が行われています。言葉遣いや人格を尊重したケアを実践されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたいものや食べたいもの、する・しない等職員は利用者の自主性を尊重するように心がけている。誕生日などで本人の希望を取り入れたお祝いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、定型にこだわることなく、買い物や散歩等で自由に過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理容室に協力していただき、個々の似合う髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やかたづけも一緒に参加されている。本人が好まれない、又は摂取できない食品は一部変更して提供している。うす味でもおいしく食べていただけるよう工夫している。メニューは栄養士が作成している。	献立はデイサービスの栄養士が作成されています。職員と一緒に準備や片付けが行われています。本人の好まれない食品やt摂取できない食品は一部変更され提供されています。薄味でも食べられるよう工夫をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎日記録し、職員全員が情報を共有している。水分を記録し、一人ひとりの好みに応じて薦めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後、又は必要に応じて一人ひとりの能力に応じた口腔ケアの支援をしている。	個々に応じて毎食後口腔ケアを行われています。誘導で介助の方は職員と一緒に行われています。義歯の方は一晩洗浄液に浸し清潔な義歯を使用されます。拒否の方には職員を変わるなど利用者の気持ちに寄り添いケア行っておられます。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人さんのそれぞれ、不機嫌な様子等のサインを見逃さないようにし、トイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。誘導は職員同士が確認し合い個別の排泄チェック表に記録している。	利用者のそれぞれされる様子や不機嫌な様子のサインを見逃さないように気配りをされトイレで排泄ができるよう取り組まれています。誘導の方は職員が介助の確認し支援されています。個別の記録表に記録を行なわれ排泄のパターン、習慣を活かした支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品や改装を取り入れ献立の工夫をしている。散歩や家事を通して身体を動かす機会を設けている。個人個人に合った便秘対策に取り組んでおり、海藻ゼリーや青汁を取っていただき便秘改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望や清潔保持の必要性に合わせて入浴していただいている。	曜日や体調に合わせて週3回午前入浴ができるよう柔軟な対応に努めておられます。シャワー浴や清潔保持のため清拭が行われる方もおられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促しているが、個別の体力に合わせていつでも休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から受け取った薬は看護師や職員で朝・昼・夕の目印をつけて分類している。薬は事務所に保管し、1日分のケースを利用して職員が二重・三重にチェックし、誤薬がないようにしている。薬の説明書の禁忌事項も把握している。	受け取った薬は、看護師、職員で分類し事務所で管理されています。薬の効能、副作用等はファイルに綴じ職員がチェックできるようにしておられます。薬の変更があった場合には、職員は注意深く観察し、変化が荒れば、かかりつけ医に指示を頂かれています。服薬時もトリプルチェックをし誤薬の無いように気を付けておられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新しく入所された方々の生活歴や特技を把握するように努め、ホームでも維持できるように見守っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望される方には職員が付き添い、外出していただくようにしている。本人の希望によってご家族の協力も頂いてお出かけされていたが、現在感染症対策の面もあり、実施できないことが多い。	コロナ禍ですが希望される方はデューサービスの車を利用され外出を行われています。本人の希望により家族の協力で外出されていましたがコロナ感染防止のため外出ができないことが多くなっています。利用者、家族に説明され職員は共有されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお金を立て替えているが、なるべく自分で支払いをされる機会をもつようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人からの電話を希望に応じて日常に行えるようにご家族等に協力を要請している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂(ホール)には花を飾ったり時期の壁面装飾を飾ったりと、季節を感じていただけるよう心がけている。	ホールには花を飾られたり利用者と一緒に壁に季節の飾り付けをされ季節を感じて頂ける様心掛けておられます。換気を定期的に行うことはコロナ感染症防止の為と利用者説明されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールなどにベンチやソファを置き、一人や仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力が得られる利用者の居室はなじみの家具等が置かれている。	馴染みの家具を持ち込まれ居心地よく過ごせるような工夫をされています。個室のためプライバシーの確保はできています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「便所」と大きく書いた張り紙をすることで利用者に理解しやすいよう工夫して送れるように工夫している。		